例　　　　　　　　第４学年　国語科学習指導案

|  |  |
| --- | --- |
|  | 　 令和○年○月○○日　 ４年　　　　○○名　 指導者　○○　○○ |

１　単元名　　　伝統工芸のよさを伝え合おう  **Ａ**

 「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」(光村図書　４年下)

２　単元設定の理由

  **Ｂ** 本学級の子供には，様々な学習経験を重ねて，新しいことを知ったり，知り得たことを他者に伝えたりすることに対する興味・関心を高めている者が多い。例えば，知りたい意欲は読書の幅の広がりや読書量の増加等に現れ，伝えたい意欲は他者との会話内容，自主学習の題材やスピーチに取り上げる頻度の増加等に見ることができる。しかし，一方で，目的に応じて情報を理解したり表現したりすることに課題を感じる場面も目にするようになった。例えば，筆者の考えを正確に読み取れなかったり，他者に分かりやすいように情報をまとめて表現することに戸惑ったりする姿がその実態に該当する。発達や興味・関心の高まりに伴い，多くの情報（文章）量と接したいと思っても，理解することに困難さが増したり，伝えたいことが他者に的確に伝わったことが実感できなかったりすると，今後の読書や表現等に対する意欲の低下につながることも予想される。現在の知的好奇心を生かしつつ，情報（文章）における考えと例の関係を捉えること，目的に応じて中心となる語や文を見付けて要約すること等を学ぶ場を体験することは，今後の子供の言語生活を豊かにすると考え，本単元を設定した。 **Ｃ** ５月に行った「思いやりのデザイン」「アップとルーズで伝える」の学習では，「自分の身近のアップとルーズを見付けよう」というめあてのもと，筆者の考えに合致する具体的な例を新聞記事を求めて，友達と紹介し合う活動に取り組んだ。筆者の考えと例の関係については，３年生１１月の「すがたをかえる大豆」の学習経験を再確認し理解を重ねることができたが，目的に応じて中心となる語や文を見付けて要約することについては，十分な学習の機会をとることができていないため，本単元では重視したい。

  **Ｄ** 本単元は，伝統工芸のよさについて調べ，理由や例とともにリーフレットにまとめ，友達に知らせることを主たる言語活動とする。リーフレットは，紙面が少ないため，指導事項や中心となる語や文を一覧しながら文章構成を考えて書き進めることができる。また，限られた紙面内に収まる文章量となるため，文章を書くことに対する抵抗を和らげることができる。何より，「このスペース内で伝えたいことを表さなければならない」という，本単元で重視している要約に対する必要性を子供に感じさせることにも適している言語活動だと考える。

  **Ｅ** 本単元では，教科書教材「世界にほこる和紙」を入り口に，自身が関心を抱いた伝統工芸について調べていく複線型の学習形態へと展開していく。本県にも，大谷焼，遊山箱，和紙等，世界に誇る伝統工芸はあるが，そのよさについての子供の理解は乏しい。教科書教材に取り上げられるものと同様のよさをもったものが我がふるさとにも，日本中至るところにも存在すること，それらがもつよさを表現する言葉を知ること等は，子供の知的好奇心をかきたてると考える。「機械化」「デジタル化」に慣れた子供が，「人による手間暇をかけた作業」の後に作り出されたものに，どのような評価言（自らの考え）を添えるか興味深い。

  **Ｆ** 第１次では，教科書教材「世界にほこる和紙」を読み，伝統工芸に対する興味・関心を高めつつ，自身が着目する伝統工芸について，リーフレットを作成し，友達と伝え合おうとする目的をもつ。第２次では，「世界にほこる和紙」を読み進めながらリーフレットを作成し，目的のもと，例を参考にしながら筆者の考えを読み取ったり，中心となる語や文を確認しつつ要約を進めるモデル学習に取り組む。第３次では，第２次で学習したことを生かして個別学習に取り組み，自身が着目した伝統工芸についてリーフレットを作成する。第４次では，完成したリーフレットを交流し，学習を振り返る。 **Ａ**  **単元名**

　　○　教材名ではない

　　○　活動目標になるように　　　　例 「ごんぎつね」→「南吉の小窓を作ろう」

　　○　なりたい自分を意識して　　　例 「目指せ！ことわざ博士」

　　○　テーマを意識して　　　　　 例 「平和について考えよう」

　　○　子供にとって，魅力的なネーミングに。子供が「今，していることが分かる」ように。

　　２　単元設定の理由

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 第１段落…子供の実態　（課題を克服するための本単元）　（この資質・能力が付くことにより期待できる子供の言語生活の変容）第２段落…本単元の言語活動選択の理由　（この学力を付けるには，この活動が適切）第３段落…教材 （この学力を付けるには，この教材が適切）第４段落…本単元の構想・展開　（第一次は～。第二次は～。………）第５段落…本時の学習活動及び留意点 （本時の目標達成のため，この点を工夫している。この点に留意して取り組む。等） |  |

 **Ｂ ［付けたい資質・能力に関わった子供の実態］**

 **Ｃ ［付けたい資質・能力に関わった学習の履歴と課題］**

　※　育成を目指す国語科の資質・能力に関係している実態。

　※　これまでの学習を通して，身に付けてきたこと。より身に付ける必要を感じた実態。

　※　今回着目する国語の資質・能力の高まりから，新たに期待できる子供の姿・言語生活。

 **Ｄ ［この言語活動を選択した理由］**

　※　付けたい資質・能力に適した言語活動を位置付け，その理由を述べる。

　※　子供の意識が自然と付けたい資質・能力に向かう言語活動を選択する。

（小学校学習指導要領解説国語編の例示を参考にする。）

　　　　例　　心情を読む意識に誘いたい → 日記，要約する意識に誘いたい → 新聞

 **Ｅ ［教材（学習材）の特徴］**

　※　付けたい資質・能力に適した教材を位置付け，その理由を述べる。

（内容，テーマ，表現の特徴，使用語句，難易度，子供の興味・関心　等）

　※　複数の教材を使用する場合には，その教材についてもふれておく。

　※　子供の実態に即し，教師自身が作成してもよい。

 **Ｆ ［本単元の構想と展開］**

　※　学習指導過程の工夫

　　　単元展開（流れ），単元のゴール，特に重点を置く段階等を述べる。

　※　指導上の工夫等

　　　学習形態，手引き（例　課題，板書，ノート，教師の作成物，言語環境等）の仕方等において特徴的なものを述べる。

３　単元の目標  **Ｇ**

 (１)子供の活動目標

日本の伝統工芸のよさをリーフレットにまとめて伝え合おう

 (２)指導目標

　○　事典の使い方を理解し使うことができるようにする。　　　　　　　「知識及び技能」(2)イ

　○　「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えることができるようにする。

「思考力，判断力，表現力等」Bイ

　○　「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができるようにする。　　　　　　　　「思考力，判断力，表現力等」Bウ

　○ 「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，記述を基に捉えることができるようにする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　「思考力，判断力，表現力等」Cア

　○ 「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　「思考力，判断力，表現力等」Cウ

　○ 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。　　　　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力，人間性等」

４　単元の評価規準 **Ｈ**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 知識・技能 |  |  | 思考・判断・表現 |  |  | 主体的に学習に取り組む態度 |  |
|  | ①　事典の使い方を理解し使っている。（(2)イ） |  |  | ①　「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（Bイ）②　「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（Bウ）③ 「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（Cア）④ 「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（Cウ） |  |  | ①　進んで中心となる語や文を見付けて要約したり，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫したりしようとし，学習の見通しをもって，調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。 |  |

**Ｇ 　単元の目標**

（１）子供の活動目標

　　　　子供にとって，取り組む目的や内容（テーマ）が分かる，単元の見通しをもつ等ができる表現にする。

（２）指導目標

|  |
| --- |
|  「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の３つ柱で設定する。 |

「知識及び技能」

※　「知識及び技能」各指導事項の一文全部或いはその一部を使って作成してもよい。

※　文末は「～できるようにする」とする。

　　（１）のような子供の活動目標を記述せず，「単元の学習目標」として記述する場合は，子供サイドの「～できる」でもよい。

※　各文末に，該当する指導事項が分かるようにする。

 例　「知識及び技能」(1)カ ⇒ 「知識及び技能－(1)言葉の特徴や使い方に関する事項－カ

※　毎単元ごとに「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」，「(2)情報の扱い方に関する事項」，「(3)我が国の伝統的に関する事項」の３事項を揃える必要はない。

「思考力，判断力，表現力等」

※　「思考力，判断力，表現力等」各指導事項の一文全部或いはその一部を使って作成してもよい。

※　文末は「～できるようにする」とする。

　　「知識及び技能」と同様に「～できる」としてもよい。

※　領域を精選し，１～２領域とする。

※　文頭に領域名を書く。

　　「話すこと・聞くこと」において…／「書くこと」において…／「読むこと」において…

「学びに向かう力，人間性等」

※　小学校学習指導要領解説国語編P.14の「２　学年の目標」の記述を用いて作成する。

※ 文末を「～（しようと）する態度を育てる」，「～しようとする意欲を高める」等とする。

 **Ｈ 　単元の評価規準**

〔知識・技能〕の観点

　※　「単元の目標」の「知識及び技能」に関する記述を用い，文末は「～している」とする。

〔思考・判断・表現〕の観点

　※　「単元の目標」の「思考力，判断力，表現力等」に関する記述を用い，文末は「～している」とする。

〔主体的に学習に取り組む態度〕の観点

　※　以下の①～④の要素を①⇒②⇒③⇒④の順に一文にする。

　　①　粘り強さの側面〈積極的に，進んで，粘り強く　等〉

　　②　他の２観点において重点とする内容（特に，粘り強さを発揮してほしい内容）

　　③　自らの学習を調整する側面〈例：学習の見通しをもって，学習課題に沿って，今までの学習を生かして等〉

　　④　単元の主となり，自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動

　※　文末は「～しようとしている」とする。

５　指導計画

　**※　本単元は，関心をもった伝統工芸について，リーフレットを用いて紹介する目的のもと（【第１次】），教科書教材「世界にほこる和紙」を読み進めながらリーフレットにまとめていき，リーフレットの作成の仕方（方法）を学ぶとともに，目的に応じた文章の着眼点（内容）を理解する（【第２次】）。その後，【第２次】の学習を通して得た知識・技能を活用して，今度は自身が関心を抱いた伝統工芸に関する情報をリーフレットに整理する（【第３次】）。つまり，育成したい資質・能力がより確実に定着するよう，【第２次】と【第３次】において，リーフレット作りを反復している。したがって，テストも含めると１７時間という長い時数を費やした単元構成になっている。**

**他案としては，第１・２次で構成するコンパクトな単元も構想できる。**

**長い時数にする必要はないが，一単元において，似た言語活動を反復する工夫は重要である。**

**例　・場面ごとに，ある登場人物の心情を日記に表す**

**・調べたことを，複数のカードに同形式で記録していく**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 |  | 学習活動 |  |  | 指導上の留意点 |  |  | 評価規準・評価方法等 |  |
| １・２・３ |  | 【第１次】１　「世界にほこる和紙」を読み，伝統工芸に対する興味・関心を高めつつ，自身が着目する伝統工芸のよさについて，リーフレットを作成し，友達と伝え合おうとする目的や学習の見通しをもつ。（新出漢字や語句の学習をする。） |  |  | ◇伝統工芸に関する資料（実物，文献，リーフレット，パンフレット等）を用意し，自由に手にしたり閲覧したりできるよう環境整備をする。 |  |  |  |  |
| ４・５・６・７・８ |  | 【第２次】○「世界にほこる和紙」を読み進めながらリーフレットを作成し，目的のもと，例を参考にしながら筆者の考えを読み取ったり，中心となる語や文を確認しつつ要約を進めるモデル学習に取り組む。・教科書例文「博多おり」を読み，文章構成，書き方，着眼点等を知る。・筆者が和紙の「よさ」を何だと考えているかを読み取る。・伝統工芸の説明をまとめて，学習の手引き①の【初め】に書く。・筆者の考えの理由となる例をまとめて，学習の手引き①の【中】に書く。（本時）・筆者の考えをまとめて，学習の手引き①の【終わり】に書く。・まとまりごとに中心となる語や文を確かめ，それを用いて文章全体を200字以内で要約する。・要約した文章を読み合い，要約のしかたについて気付いたことを伝え合う。 |  |  | ◇リーフレットに模したＢ４版二つ折り（全４ページ）の書き込み型の学習の手引き①を用意する。　表紙にあたる１ページ目には伝統工芸の名前，写真や絵を，裏表紙にあたる４ページ目には施設情報等を教師が概ね記載しておく。 また，全ページ上下二段に分け，上段各ページには教科書所収の例文「博多おり」の内容を整理して掲載し，「和紙」について書き進めるときの例として確認しやすいようにする。・学習の手引き①には，枠を書き込んでおき，【はじめ】【中】【終わり】の組み立てが意識できるようにしておく。◇「よさ」という語句の意味を実感的に捉えられるように，国語辞典を用いて調べたり，事例を出し合ったりする場を設定する。◇中心となる語や文を見付けることができるよう，取り上げた語や文が伝統工芸の「よさ」に関係しているかどうかを吟味するように発問する。◇それぞれの工夫が見えやすいように，ＩＣＴ機器等を活用し，何人かの要約文を対比して提示する。 |  |  | 〔思・判・表①②〕学習の手引き①【はじめ】【中】【終わり】の各箇所に書き込んだ内容の確認〔思・判・表③④〕学習の手引き①【はじめ】【中】【終わり】の各箇所に書き込んだ内容の確認〔主①〕学習の手引き①【はじめ】【中】【終わり】の各箇所に書き込んだ内容の確認 |  |
| ９・10・11・12・13 |  | 【第３次】○第２次で学習したことを生かして個別学習に取り組み，自身が着目した伝統工芸についてリーフレットを作成する。・選んだ伝統工芸について，目的に応じて本や資料を選んで読み，分かったことを学習の手引き②に書き出して，整理する。・組み立てと資料の使い方を考えながら，学習の手引き③に説明する文章を書く。・清書用紙に説明する文章を書く。・表紙や裏表紙を作って仕上げる。 |  |  | ◇教科書P.52「百科事典での調べ方」等を参考にして，文献の探し方や情報の調べ方について学習する場を設定する。◇学習の手引き②には，選んだ伝統工芸の「よさ」や，そのよさの理由や例となる◇モデル学習を想起しながら，個別学習を進めることができるよう。学習の手引き③は，学習の手引き①と似たレイアウトにする。 |  |  | 〔知・技①〕観察・学習の手引き②選んだ伝統工芸について，調べて分かったことを記述した内容と取り組む様子の確認〔思・判・表①②〕学習の手引き③【はじめ】【中】【終わり】の各箇所に書き込んだ内容の確認 | 〔思・判・表③④〕学習の手引き③【はじめ】【中】【終わり】の各箇所に書き込んだ内容の確認 |
| 14・15・16 |  | 【第４次】○完成したリーフレットを交流し，学習を振り返る。（テストの１時間） |  |  | ◇ |  |  |  |  |

６　本時

 (１) 目　標

 ①子供の活動目標

 「世界にほこる和紙」について，リーフレットの【中】を書こう。

 ②指導目標  **Ｉ**

 教科書例文のまとめ方を参考に，目的に応じて，中心となる語や文を見付ける活動を通して，要約文を作ることができるようにする。

 (２) 展　開  **Ｊ**   **Ｋ**   **Ｌ**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点（or　指導・支援） | 具体の評価規準 | 評価方法 |
|  5分20分15分 | １　前時の学習を想起し，本時のめあてを確認する。 | １　何人かの子供に，前時の学習の振り返りを読むように促し，本時に学習することを確認する。　　また，前時に書いたリーフレットの【初め】についても何人かの発言を促し。筆者の考えを共通理解する。 |  |  |
|  | 「世界にほこる和紙」について，リーフレットの【中】を書こう。 |  |
|  | ２　文章を書き進めやすいようにするために，書き込み型の学習の手引きを用意する。（配慮点）　○　リーフレットに収める文章であることを伝え，字数を制限する。　○　教科書例文「博多おり」のよさのまとめ方を参考にしながら書くことができるよう体裁を工夫する。　　また，過去の学習内容が想起しやすいよう，「要約するとき」(４年上P.86-87)の学習時の掲示物や板書記録等を提示する。 |  |
| ２　「和紙のよさ」として筆者が考えていることの理由と例をまとめた文章を書く。　○　大事だと考える箇所に線や印をつける。　○　隣同士で確認し合う。　　　　　 等 |   |
| ３　まとめた文章を発表し合い，目的や筆者の考えに合う中心となる語や文を確認する。　・「くり返し出てくる言葉があるよ。」　・「この部分が理由で，この部分が例だね。」　　　　 等 | ３　目的と筆者の考えに合う語や文に着目できるよう，発表内容を整理しながら板書する。　○　洋紙にはないよさ ・やぶれにくく，長もち　　・正倉院の文書　　・絵画や手紙の修復　○　自分の気持ちを表す方法　　・めいし　　・お年玉のふくろ |  |  |
|  |  |  |  | ４　自身が２で書いた文章を元に，　本時の学習を参考に加除修正して　書くように指示する。 |  |  |  書き込み型の 学習の手引き 学習の記録） |
| 5分 | ４　本時の学習を　生かし，リーフ　レットの「中」　を書くとともに，　学習の振り返り　を書く。 | 目的に応じて，中心となる語や文を見付け，それらをつなげて要約文を書いている。 |
|  | 　なお，【初め】を書くときから使用している，教科書例文「博多おり」を「初め・中・終わり」に整理したリーフレットの文章を上段にし，下段には同じ構成の記入枠を設けた書き込み型の学習の手引きの【中】の箇所に書くようにする。 |
|  |

 (３) 本時の評価  **Ｍ**

|  |  |
| --- | --- |
| 「十分満足できる」と判断される状況 | 目的に応じて，理由や事例との関わりも踏まえつつ，中心となる語や文を見付け，それらをつなげて要約文を書いている。 |
| 「おおむね満足できる」状況にするための手だて | 　板書から中心となる語や文を確認し，つなぎの言葉を一緒に考えたり，示したりする。 |

 **Ｉ 　指導目標**

※　小学校学習指導要領国語科の各指導事項の一文全部或いはその一部を使って作成してもよい。

 **Ｊ 　学習活動**

※　学習活動が１～４であれば…

　 　例　 １…本時の課題確認

　　　　２…個人の取り組み

　　　　３…全体での取り組み，分かち合い

　　　 ４…振り返り／３を生かして，より高次へ

※　予定している学習活動を順に書くのではなく，子供の思考・意識の流れを考えて組み立てる。

※　「めあてをつかむ活動」と「振り返りの活動」を位置付ける。

※　子供が自分の考えを持つ時間を確保する。（できるだけ何かに書くようにする。）

 **Ｋ 　指導上の留意点**

※　自分（教師）の動きが目に浮かぶ具体的な指導・支援（例の中の下線部）を書く。

　　 ・このような姿が見られる子供には，このような支援をする。

　　 　・つまずいている子供だけでなく，理解や活動が速い子供への支援も考慮する。

　　 　・こんな学習形態にしてみる。

　　 　・こんな構造の板書をしよう，こんな内容を板書しよう，黒板にこのような掲示物を用意しよう。　等

　　 　・補助発問　等

 **Ｌ 　具体の評価規準**

※　１時間あたり１～２つでよい。

※　「単元の評価規準」 と「本時の目標」との整合性を図る。

 **Ｍ 　評価**

※　「本時の目標」「学習活動における具体の評価規準」との整合性を図る。

第１時　「世界にほこる和紙」を読み，感想を交流する。

第２時 新出漢字や語句の学習をする。

第３時 伝統工芸について資料を自由に読んだり対話をしたりする。

第４時 教科書の例文を読み，リーフレットの特徴について確認する。

第５時 「世界にほこる和紙」における筆者の考えを読む。

　　　 「世界にほこる和紙」について，リーフレットの【はじめ】を書く。

第６時 「世界にほこる和紙」について，リーフレットの【中】を書く。

第７時 「世界にほこる和紙」について，リーフレットの【終わり】を書く。

第８時　書いたリーフレットを読み合い，リーフレットの書き方を確認する。

第９時 自分がリーフレットにしたい伝統工芸について資料や情報を検索する。

第10時 情報を書き抜く。

第11時 原稿を書く。

第12時 原稿を書く。

第13時 清書と表紙・裏表紙を作成する。

第14時 完成したリーフレットを交流し，まとめを書く。

第15時 完成したリーフレットを交流し，まとめを書く。

第16時 テスト